

リアルタイム品質管理支援ツール



RealTimeMonitor 説明書

2003. 9.25



はじめに

VisualBasic は米国 Microsoft の登録商標です。 その全ての製品名及び商標は、それぞれの所有者に帰属します。

～ご注意～

本マニュアルは、予告無く変更することがあります。

本マニュアルの著作権は、東京ガス株式会社にあります。

許可無く本マニュアルの一部あるいは全てを複製することは禁じられています。

本マニュアルを運用した結果については、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください

目次

1. 概要	3
2. 事前準備	3
3. プログラム仕様	3
3. 1 プログラム概要	3
3. 2 動作フロー	4
4. 操作説明	5
4. 1 事前設定	5
4. 2 アラーム監視の開始	7
4. 3 アラーム監視の停止	7
4. 4 画面切替	7
5. スタートアップで起動	7

1. 概要

RealTimeMonitor プログラムは工程管理図または p 管理図、n p 管理図の ActiveX を使用し、リアルタイムに最新値のルール判定結果に伴い、必要により任意のイベント（Mail 配信）を発生させるサンプルプログラムです。

当プログラムは、リアルタイムにアラーム状態の監視および任意のイベントを発生させるアプリケーションの構築例を示したものです。 お客様のご使用方法に適したリアルタイム監視アプリケーションを構築する際の補足として使用していただくことを目的としています。

2. 事前準備

1. JoySPC 本体をインストール
2. JoySPC 本体インストール CD-ROM 内の RealTimeMonitor フォルダを任意のフォルダへコピーしてください。
3. JWMailExecXControl1.ocx をレジストリに登録してください。

※レジストリ登録方法

- ①コマンドプロンプト（「スタート」－「アクセサリ」）を起動
- ②以下のコマンドを入力し Enter

```
regsvr32 "JWMailExecXControl1.ocx のフルパス"
```

3. プログラム仕様

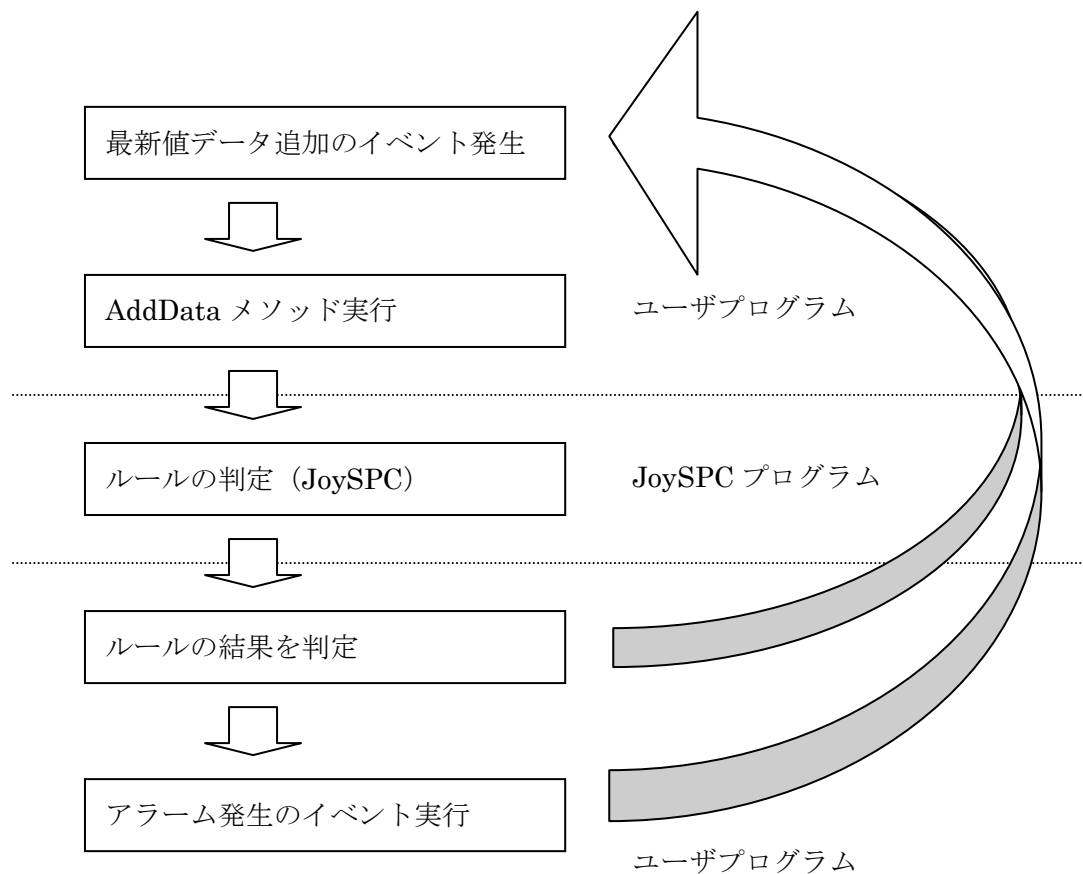
3. 1 プログラム概要

サンプルプログラムは Microsoft VisualBasic により作成しています。

当プログラムでは Timer、Adodc、JSPCCChartX（工程管理図部品）、JWMailExec（Mail 配信アプリ起動用部品）の各コントロールを使用し、プログラムを構築しています。 Timer コントロールは最新データ追加のイベントを発生させます。 Adodc コントロールは、任意のデータベースから任意のデータを取得してきます。 JSPCCChartX コントロールは Adodc コントロールが取得したデータを AddData メソッド（JoySPC コントロールメソッド）により JoySPC へデータを渡し、ルールの判定結果を取得します。 必要により、JWMailExec コントロールを使用し、Mail 配信を行います。

3. 2 動作フロー

以下にサンプルプログラムの動作フローを示します。



4. 操作説明

サンプルプログラムを使用し、リアルタイム監視を行う場合には、以下の手順を参照してください。

4. 1 事前設定

1. JoySPC 設定ファイル作成

工程管理図を起動し、JoySPC 設定ファイルを作成してください。

※ 設定ファイルの作成方法については、別紙「JoySPC 操作説明書」を参照して下さい。

※ 設定ファイルを作成する際に、DB 接続設定、CSV ファイル読み込み設定、JoyWatcher 接続設定は行わないで下さい。 その他の設定項目については設定可能です。

2. JWMail 設定ファイル作成

アラーム発生時にメール機能を使用する場合は、JWIMail.exe (RealTimeMonitor に付属) に必要な設定ファイルの設定等を行ってください。 JWIMail.exe の設定方法については、別紙「JWIMail マニュアル」を参照して下さい。

3. RealTimeMonitor 設定ファイル作成

RealTimeMonitor.exe を起動し、「アラーム監視設定」ボタンをクリックします。

以下の設定ウィンドウが表示されます

Form2

データベース設定

ソース名 ユーザ名 パスワード

テーブル名 日付時刻フィールド名

データフィールド名

JoySPC 設定ファイル名 選択

☐ 起動時にアラーム監視の自動開始 インターバル 10000 ms

メール設定

ルールNo	メール設定

変更 削除

メール設定一覧

1:
2:
3:
4:
5:
6:

☐ メール送信有効

ファイル名

保存 開く OK Cancel

既に作成済の RealTimeMonitor 設定ファイルを使用する場合は、「開く」ボタンで設定ファイルを選択してください。

1) データベース設定

- ① ODBC の登録を行ったデータベースのデータソース名、ユーザ名、パスワードを設定してください。
- ② 使用するテーブル名を設定し、設定したテーブル内の日付時刻型のフィールドおよび、品質データのフィールド名を設定してください。品質データのフィールドが複数ある場合には、フィールド名の間を“、”で区切ってください。
- ③ 事前に準備した JoySPC 設定ファイルを選択してください。「選択」ボタンをクリックすることにより、オープンダイアログが表示されます。
- ④ DB を読み込む周期をインターバルに設定してください。単位は ms となります。
- ⑤ RealTimeMonitor を起動した場合に、自動的に監視を開始したい場合は、「起動時にアラーム監視の自動開始」にチェックを入れます。

※ プログラムの起動時引数にアラーム設定ファイル名の設定が必要です。(5 章参照)

2) メール設定

- ① 「ルールNo。」に JoySPC で設定したルールナンバーに対応した、ルールナンバーを設定します。
- ② 「メール設定」にルールナンバーに対応した JWMail 設定ファイルおよび引数を設定します。
- ③ 「変更」ボタンをクリックします。変更したルールNo.の行が変更されます。
- ④ メール配信が必要なルールNo.に①～③の設定を行います。

3) アラーム設定ファイルの保存

「保存」ボタンをクリックします。保存ダイアログが表示されますので、ファイル名を指定し保存を行います。

Form2

データベース設定

ソース名 ユーザ名 パスワード

NAIS

テーブル名 日付時刻フィールド名

JOYSPC PTIME

データフィールド名

NONAME1,NONAME2,NONAME3

JoySPC 設定ファイル名

C:\JoySPC\SPC設定ファイル\ALarmParam.XML 選択

☒ 起動時にアラーム監視の自動開始 インターバル 10000 ms

メール設定

ルールNo. メール設定 変更 削除

メール設定一覧

1:	C:\Program Files\JTE\JoyWatcher\JWIMail.exe /r C:\Program Files\JTE\J
2:	C:\Program Files\JTE\JoyWatcher\JWIMail.exe /r C:\Program Files\JTE\J
3:	C:\Program Files\JTE\JoyWatcher\JWIMail.exe /r C:\Program Files\JTE\J
4:	C:\Program Files\JTE\JoyWatcher\JWIMail.exe /r C:\Program Files\JTE\J
5:	C:\Program Files\JTE\JoyWatcher\JWIMail.exe /r C:\Program Files\JTE\J
6:	C:\Program Files\JTE\JoyWatcher\JWIMail.exe /r C:\Program Files\JTE\J

☒ メール送信有効

ファイル名 C:\JoySPC\AlarmVB\Params.txt

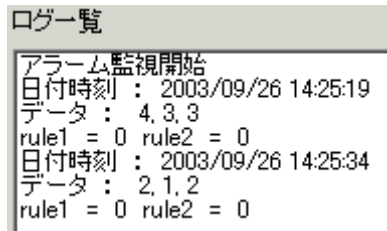
保存 開く OK Cancel

以上の設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。

4. 2 アラーム監視の開始

4.1 項の設定ファイルを設定を事前に行い、メインフォームの「開始」ボタンをクリックします。

ログ一覧に“アラーム監視開始”と表示されます。 設定した周期で AddData 実行のログが、下図のログ一覧が表示されます。



```
ログ一覧
アラーム監視開始
日付時刻 : 2003/09/26 14:25:19
データ : 4, 3, 3
rule1 = 0 rule2 = 0
日付時刻 : 2003/09/26 14:25:34
データ : 2, 1, 2
rule1 = 0 rule2 = 0
```

4. 3 アラーム監視の停止

アラーム監視を停止する場合は、メインフォームの「停止」ボタンをクリックします。

ログ一覧に“アラーム監視停止”と表示されます。

4. 4 画面切替

メインフォームの「画面切替」ボタンをクリックすると、ログ一覧と JoySPC の画面を切替ることができます。

5. スタートアップで起動

スタートアップに登録することにより、パソコン起動と同時に RealTimeMonitor の監視を開始することができます。

以下に手順を示します。

1. スタートアップに RealTimeMonitor.exe のショートカットを作成します。
2. ショートカットのプロパティを開き、「ショートカット」タブの「リンク先」にアプリケーション名の後に半角スペースを入れ、アラーム設定ファイルのフルパスを入力します。